

～タガメを求めて～

2018.7.23

株式会社コーセツコンサルタント 中 智弘

◆はじめに

8月といえば皆さん何を想像しますか。夏祭り、花火大会、海開き、西瓜割り...様々な行楽が浮かんできますね。その中でも私は昆虫採集が浮かんできます。現在、きこう文を書いている私は今年で25歳になりますが、幼い頃からずっと昆虫が好きで、休日は猛暑日だろうと関係なく、川辺や森に出掛けるときは、いつも網と虫かごを持って昆虫採集をしに行きます。今回は、珍しい虫として評されるタガメを採りにいったことを書いていこうと思います。

◆水生昆虫「タガメ」とは

タガメといってもどのような虫なのか想像しづらいと思うので、説明しておきたいと思います。

タガメは、セミやカメムシの仲間分類され、体長は50～70mm程に達する日本最大の水生昆虫です。主に池沼や小川に棲んでおり、生きているカエルや小魚を食べます。タガメの最大の特徴といえば、カマキリのような鋭い前肢であり、この鎌を使ってしっかり獲物を捕らえて餌にします。この風貌から別名は水中の殺し屋、ギャングとも呼ばれているそうです。また、気性が荒く、時には自分より大きなヘビにも襲い掛かることもあるそうです。しかし、近年農薬の普及や用水路のコンクリート護岸工事により、個体数が激減し、身近で採れる昆虫ではなくなってしまいました。下記の写真は、タガメを飼育している友人から頂きました。



写真-1 獲物を待ち構えるタガメ



写真-2 タガメの決めポーズ

◆「タガメ」を求めて現地へ

早朝7時頃に昆虫好きの友人と待ち合わせをし、埼玉から車で1時間半程かけて、北関東の田んぼが多い所に行ってきました。この日の気温は28℃前後で、蒸し暑さはなく、カラッとした暑さだったので過ごしやすかったのかなと思います。現地の風景と生息場を下記に示します。



写真-3 現地の風景



写真-4 生息場

上記のように、田んぼと流れが緩やかな小川に様々な水生昆虫が潜んでいます。採集方法は、水草が生い茂っている所を重点的に探し、ひたすらタモ網でガサガサと掬っていきます。カブトムシやトンボみたいに見つけて採るという方法とは違います。

◆最初に採れた水生昆虫

作業開始から10分程経過したところ、まず初めにタガメと同じ仲間のミズカマキリを一匹採ることができました。



写真-5 ミズカマキリ①



写真-6 ミズカマキリ②

ミズカマキリは、胴体が細長く華奢な体つきをしており、長い呼吸管が付いているのが

特徴です。また、水生昆虫の中でも深い水域を好んで棲むことが知られています。私にとってミズカマキリは、小学生の時によく学校のプールで探して見つけていたので、この虫を採るとその頃の記憶を思い出し、親しみを感じます。

◆ついにタガメを発見！

開始から30分後、タモ網で繰り返し作業をおこなっていると、網に泥が溜まっていた。取り除こうと思い、泥を地面に落としていたところ、お目当ての水生昆虫、「タガメ」が一匹紛れ込んでいました。写真のとおり大きな鎌をあげて威嚇しているのが、わかると思います。タガメは、むやみに手で掴んだりすると鋭い口で刺されることがあるので注意が必要です。実は、毎年2回程現地に訪れており、初めて捕まえたときに比べれば衝撃と感動は薄れてしまいましたが、無事に生存しているということが現地で確認できたので、ほっと一安心しました。何事も変わりなくタガメが採れて嬉しかったです。



写真-7 タガメ①



写真-8 タガメ②

◆他にも様々な水生昆虫をゲット！

タガメを採った嬉しさによってモチベーションが一気に上がり、開始から2時間後には、タガメ2匹目と幼虫、他にタイコウチ、コオイムシ、シマゲンゴロウといった様々な水生昆虫を採ることができました。

※最初に採ったタガメは脱走してしまったので、写真は2匹しか写っていません。



写真-9 今回採れた水生昆虫

◆おわりに

今回、タガメの生存確認と童心に戻り昆虫採集することが目的だったので、採集したタガメも他の水生昆虫も全て元の場所に戻してあげました。最後に、8月号ということなので、昆虫を題材にしたきこう文を書かせて頂きました。この記事を読んで、少しでも生き物を追いかける楽しさや幼少の頃の記憶などを振り返って頂ければと思います。

以上。